

農作物技術情報 第3号の要約

令和8年5月28日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 県全体の田植え盛期は平年並みと推定される。苗充実度は平年並み、一部地域でやや劣る。</p> <p>技術対策</p> <p>活着後の水管理: 好天時は浅水管理で地温を高め、分けつの発生を促す。</p> <p>中干し: 6月下旬(6月21日～25日頃)を目安に開始し、溝切りを実施する。</p> <p>除草剤の散布: 適期を逃さず散布する。</p> <p>病害虫: 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分する。地域一斉草刈によりカメムシの密度低減に努める。</p>
畑作物	<p>生育状況: 小麦の開花期は平年並みからやや早い。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦: 今後の気温によっては、成熟期が平年より早まる可能性があるため、収穫機械の整備や乾燥施設との連携など刈り取りの準備を早めに行う。</p> <p>穂が緑色の時期に、赤かび病に罹病した穂を抜き取る。赤かび病の発生が多い場合や倒伏が見られた場合は、刈り分けをし、健全な子実と分けて管理する。子実水分30%以下になり次第、速やかに収穫する。</p> <p>大豆: 排水対策などによる土壌条件の整備と、播種作業などを計画的に実施し、初期生育を良好にする。</p> <p>夏期の高温対策として、播種適期の範囲で遅播きを検討する。遅播きした場合は、栽植密度を高くする。また、干ばつの際に開花期以降に畦間かん水ができるよう、播種時に畦立てを行う。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類の生育は平年並みできゅうり、ピーマンで収穫が始まっている。露地果菜類は平年並みで、5月下旬～6月上旬頃が定植のピークとなる見込み。葉茎菜類は、雨よけほうれんそうは良好な生育で、ねぎ、高冷地のレタス、キャベツは、生育は平年並み。一部乾燥による影響が見られる。</p> <p>技術対策</p> <p>全般: 圃場の排水対策を徹底するとともに、生育促進、施肥効率の改善等を図るため、適時かん水を行う。</p> <p>施設果菜類: 温度・湿度管理を徹底し、草勢維持に努めるとともに、病害虫の初期防除を徹底する。</p> <p>露地果菜類: 定植後の活着促進と初期生育確保のため、土壌水分と地温の確保に努める。</p> <p>葉茎菜類: 雨よけほうれんそうは、ハウスの換気を徹底し、べと病、萎凋病対策を徹底する。露地葉菜類は、害虫の発生状況に応じた早めの防除を行う。</p>
花き	<p>生育状況: りんどうの生育は平年並み～やや早い。6月上旬より本格的に定植が始まる見込み。小ぎくの生育は、8月咲き品種の定植時期は平年並みとなり、生育は概ね順調。9月咲き品種の定植が始まっている。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう: 適期定植に努め、乾燥時は通路かん水する。リンドウホソハマキの重点防除時期となっているので防除を徹底する。また、葉枯病、ハダニ類は初期防除に努める。</p> <p>小ぎく: 定植、摘心、整枝作業が遅れないよう適期作業に努める。乾燥時は、適時かん水を行う。白さび病、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類等の適期防除を行う。</p>
果樹	<p>生育状況: りんごの満開期は、平年より8日程度早い。ぶどうの展葉期は、平年より10日程度早い。</p> <p>技術対策</p> <p>りんご: 開花期間中に、降雨や強風、低温の日があったため、結実への影響を見極めつつ、良質な果実を残すよう摘果を進める。</p> <p>ぶどう: 開花期前後が繁忙期となるため、今後の生育進度を把握し、管理作業を計画的に進める。</p>
畜産	<p>生育状況: 牧草は、オーチャードグラスの出穂期となり収穫適期となっている。草丈が低い傾向にあるが収穫が始まっている。飼料用とうもろこしは平年よりやや早く5月上旬から播種が始まっている。</p> <p>技術対策</p> <p>牧草: 一番草: 出穂期に収穫する。降雨時は無理に乾草とせずサイレージ調製に切り替える。刈り取り高さは10cm以上とし、再生を促す。収穫後は速やかに追肥を行う。</p> <p>飼料用とうもろこし: 除草剤は土壌処理を基本とし、発生する雑草に応じて生育期処理を行う。虫害が発生しやすい時期となるので、早期発見に努め被害拡大を防止する。</p> <p>家畜: 牛舎の暑熱対策は5月から行い、THIに応じた送風や換気を行う。自由飲水量を確保する。</p>
野生獣	<p>人身被害防止 死亡事故が発生していることから、山菜採りはできるだけ控える</p> <p>野生獣対策 「よせつけない・まもる・とる」の基本対策を実施する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

- 農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。
- 春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日)「これくらい・・・」少しの油断が事故のもとと初心忘れず安全作業

次号は令和8年6月25日(木)発行の予定です

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 令和8年5月28日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 活着後の水管理 好天時は浅水管理で地温を高め、分けつの発生を促しましょう。
- ◆ 中干し 6月下旬（6月21～25日頃）を目安に開始し、溝切りを行いましょう。
- ◆ 除草剤の散布 適期を逃さず散布しましょう。
- ◆ 病害虫
 - ・ 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分しましょう。
 - ・ 斑点米カメムシ類のふ化盛期に合わせ、地域一斉に草刈を実施しましょう。

1 田植えの進捗状況

- (1) 県内の田植え盛期（50%終了）は、平年並みの5月17日頃と推定されます（表1）。
- (2) 育苗期間中、気温は平年に比べ高く、日照時間も多く推移したことから、苗の充実度は平年並に良好となりました。一部地域では草丈が長く、充実度がやや低い苗もみられました（表2）。
- (3) 田植え盛期の5月中旬は気温が平年に比べ高く、活着は概ね良好となっています。

表1 県内農業地帯別田植状況（各農業改良普及センター調べ：5/20現在速報）

地帯名	本年			平年			平年差		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/15	(5/20)	(5/26)	5/15	5/20	5/26	0	(0)	(0)
北上川下流	5/8	(5/16)	(5/23)	5/9	5/15	5/22	-1	(+1)	(+1)
東 部	5/8	(5/16)	(5/23)	5/11	5/16	5/23	-3	(0)	0
北 部	5/17	(5/21)	(5/27)	5/18	5/23	5/28	-1	(-2)	(-1)
県 全 体	5/10	(5/17)	(5/24)	5/11	5/17	5/24	-1	(0)	(0)

- 1) 平年値は平成28年～令和7年の平均。始期：進捗10%、盛期：50%、終期：90%
- 2) 括弧内の数値は、現時点において未確定市町村が含まれるため推定値
- 3) 県全体の数字は、各地帯の作付面積比による加重平均

表2 苗の生育状況（農業改良普及センター生育診断予察ほ）

地帯名	草丈			葉数			第1葉鞘長			100個体風乾重/草丈		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (葉)	平年 (葉)	平年差 (葉)	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (mg/cm)	平年 (mg/cm)	平年比 (%)
北上川上流	18.4	17.8	0.6	2.8	2.7	0.1	4.6	4.9	-0.3	1.20	1.17	103
北上川下流	15.6	15.9	-0.3	3.1	2.9	0.2	3.6	3.9	-0.3	1.39	1.29	108
東 部	14.1	16.4	-2.3	3.3	3.0	0.3	3.3	4.0	-0.7	1.54	1.46	105
北 部	19.0	15.6	3.4	2.9	2.8	0.1	4.3	4.1	0.2	1.13	1.48	76
県 全 体	16.5	16.3	0.2	3.0	2.8	0.2	3.9	4.2	-0.3	1.30	1.30	100

- 1) 充実度は100個体風乾重を草丈で除した値
- 2) 平年値は原則、令和3年～令和7年の平均
- 3) 表中の数値は端数処理を実施
- 4) 県全体の数字は、各地帯の作付面積比による加重平均

2 活着後の水管理

(1) 分けつ促進のため、2～3cmの浅水管理を基本とします（図1）

- ・ 昼間は止水、朝夕の短時間かんがいで水温・地温を高め、初期生育を確保します。
- ・ 気温が15℃以下の低温時は、葉先が出る程度の深水管理とします。なお、低温でも日照があり、風のない日は、日中は浅水にして水温・地温の確保に努めてください。
- ・ 田植えが遅れている場合は、茎数確保に向け、浅水管理により分けつの発生を促します。

(2) 稲を健全に保つため、以下の場合は水を入れ替えてください。

- ・ 藻類や表層剥離が多発する水田
 - アミミドロ：窒素・リン酸多、水温22～25℃
 - アオミドロ：リン酸多、低温・曇雨天、水温18～23℃、pH8.5～9
 - 表層剥離：リン酸多、水温25℃付近、pH6～7
- ・ 水持ちが良すぎる場合（7日間以上入水不要）
- ・ 早期にガスが発生する水田（表2）

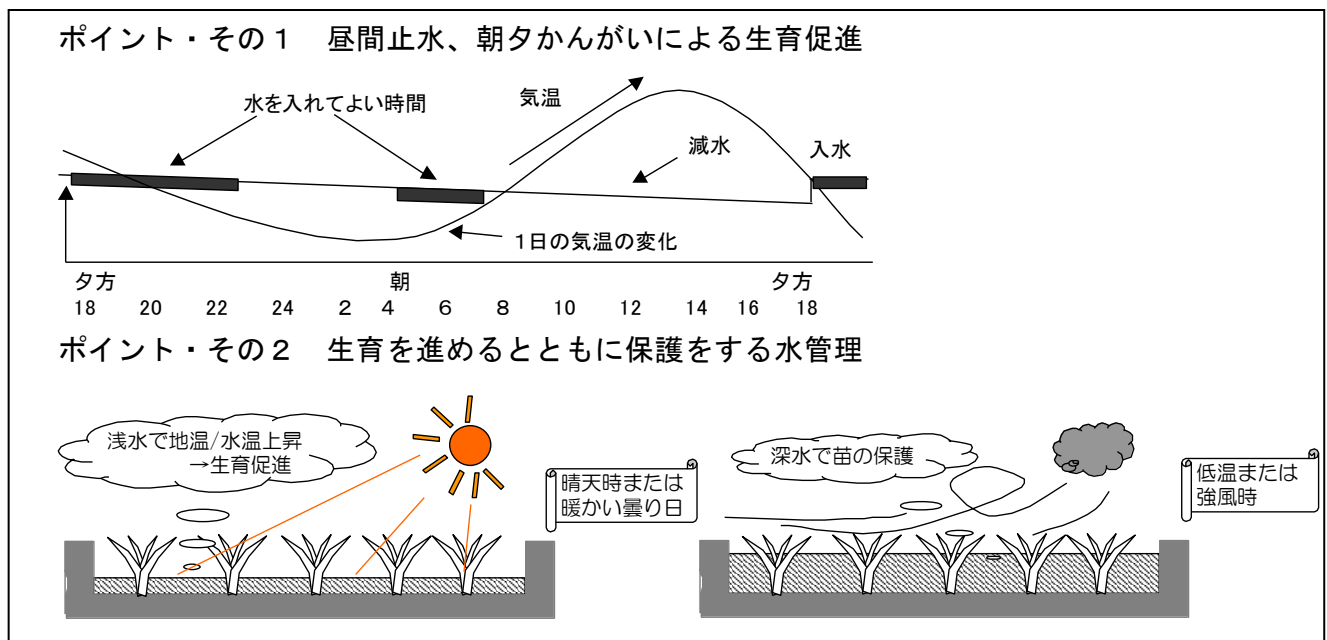


図1 田植え後の水管理のポイント

表2 水田でのガス発生時の対策

特 徴	生育への影響	対 策	
		分けつ初期 (6月上旬頃)	分けつ盛期 (6月中旬頃)
水田に足を踏み入れても気泡が発生しない	なし	—	—
水田に足を踏み込んだときに、多量の気泡が発生する	根の活力低下	水の入替え	水の入替え
晴れた日に自然に気泡が発生し、パチパチ音がきこえる。歩くと著しい量の気泡が発生する(水田から離れてもドブ臭がする)	根の伸長阻害 地上部黄化	夜間落水	間断灌漑 夜間落水

3 中干し

(1) 開始時期の目安・・・茎数が目標穂数の8～9割となる時期（平年6月25日頃）

- ・ 中干しを適切に実施することで、余剰分けつ・節間伸長の抑制や根の健全化、機械収穫に必要な地耐力の確保のほか、温室効果ガス（メタン）の抑制にもつながります。
- ・ 中干しは、梅雨が本格化する前の6月中に開始できるよう、初期生育の確保に努めてください。
- ・ 田植えが遅れた場合は、十分な分けつを確保してから中干しを実施してください。

〔参考〕 m²あたり茎数の目安（目標穂数の8～9割）

- ・ 「ひとめぼれ」420本前後
- ・ 「金色の風」「銀河のしずく」350本前後
- ・ 「いわてっこ」内陸：390本前後、県北・沿岸：370本前後
- ・ 「白銀のひかり」350本前後

(2) 中干しの程度

- ・ 中干しの効果を高めるため、溝切りをおこないます（図2）。
- ・ 細かい亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度まで乾かします（図3）。
- ・ 十分乾いたら「1日湛水→2日落水」⇒「2日湛水→1日落水」と落水間隔を徐々に短くし、幼穂形成期頃には湛水管理とします。
- ・ 根腐れ防止のため、中干し後の急な湛水はさけてください。



図2 溝切り



図3 中干し程度（軽く踏んで足跡がつく）

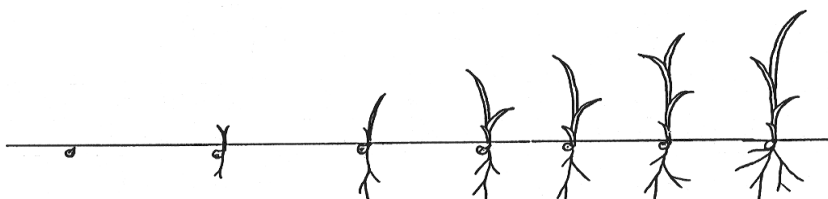
4 除草剤の散布

(1) 除草剤の散布時期

雑草の種類や葉齢を良く確認し、散布適期内の早い時期に散布します。なお、除草剤ラベルに記載された散布上限のノビエ葉齢（例：～ノビエ2.5葉まで）は、平均葉齢でなく「最大葉齢」です。近年はノビエの葉令の進展が早い傾向がありますので、適期を逸しないように散布してください（図4、図5）。

(2) 散布後の水管理

十分な湛水深を確保してから除草剤を処理します。散布後3～4日間は水を動かさず、7日間は落水・かけ流しをしない管理としてください（この間、田面を露出させないこと）。



休眠中	鞘葉期	1葉期	1.5葉期	2葉期	2.5葉期	3葉期
(おおよその時期)	代かき後7～10日	10～13日	11～16日	13～19日	16～22日	22日～

図4 ノビエ葉齢の進展



図5 ノビエ2葉期頃の個体

5 病害虫防除

(1) 葉いもち・・・補植用取置苗の早期処分

ア 水田内や畦畔際に放置された取置苗は、いもち病の伝染源になる恐れがありますので、直ちに処分してください（図6）。

イ 移植時にいもち病予防箱粒剤を施用しなかった場合、葉いもち予防の水面施用粒剤を6月20日頃に施用し、中干し開始の1週間前までに散布を終えてください。なお、例年、葉いもちが早期に発生する地域では、これより7日程度早めに施用してください。

ウ 葉いもち予防水面施用粒剤を施用する前や箱施用剤を使用した場合でも、ほ場をよく観察して葉いもちの発生が見られた場合には、直ちに茎葉散布を行います。



図6 取置苗での葉いもち発生

(2) 斑点米カメムシ・・・草刈り

■ アカスジカスミカメ幼虫のふ化盛期(表3)を迎えている地域では、直ちに草刈りを実施してください。

ア 斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などで繁殖します（図7、図8）。

イ アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵のふ化（卵がかえること）盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的です。

ウ ふ化盛期の前後5日間に、越冬場所である水田畦畔、牧草地、雑草地、農道等の草刈りを地域一斉に行います。→ふ化盛期を迎えた地域（表3）では直ちに草刈りを実施してください。

エ 草刈り後10日間程度は雑草の出穂を抑制できますが、その後も、イネ科植物（イタリアンライグラス、スズメノカタビラ等）を出穂させないように管理します。



図7 畦畔に群生するイタリアンライグラス
(斑点米カメムシの増殖原となる)



図8 アカスジカスミカメ成虫

表3 各地におけるアカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期（推定）

（令和8年度農作物病害虫発生予察情報 発生予報第3号（6月予報）より）

年次	一関	江刺	北上	大船渡	盛岡	二戸	軽米	宮古	松尾	遠野	久慈	湯田
令和8年① 平年並経過 ¹⁾	5/19	5/24	5/19	5/28	5/25	5/30	5/31	5/29	6/1	6/5	6/7	6/10
② 平年+2℃経過 ¹⁾	-	-	-	5/28	-	5/28	5/29	5/28	5/30	6/2	6/3	6/6
平年 ²⁾	5/21	5/22	5/23	5/25	5/26	6/1	5/31	5/30	5/31	6/5	6/5	6/10
(参考) 令和7年 ³⁾	5/22	5/24	5/27	5/31	6/2	6/8	6/7	6/5	6/7	6/9	6/9	6/11
(参考) 令和6年 ³⁾	5/7	5/7	5/10	5/11	5/12	5/22	5/23	5/16	5/24	5/31	5/24	6/7

1) 5月25日まではアメダス日平均気温観測値を、以降は日平均気温観測値の直近10年平均値及び同左+2℃を用いて算出。

2) 直近10年（平成28年～令和7年）のアメダス日平均気温観測値を使用して算出。

3) 令和6年、7年の各々アメダス日平均気温観測値を使用して算出。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyuu/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

1 クマに遭遇しないために

- ・ 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
- ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

2 クマを寄せ付けない

- ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
- ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。

3 出会ったときの行動

- ・ 背を向けて走って逃げない
- ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる

4 襲われそうになったら...

- ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

[~5月31日]

山火事を起こすも防ぐも 私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 令和8年5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 小麦 小麦の開花期は平年並～やや早くなっています。1か月予報によると、6月は気温が高い日が多くなる見込みであり、成熟期が平年より早まる可能性があります。収穫適期を迎えた際に速やかに収穫作業が行えるよう、乾燥施設との連携や収穫機械の整備など、刈り取りに向けた準備を早めに進めましょう。

かび毒汚染を低減するためには、赤かび粒の混入を防ぐとともに、赤かび病の進展やDON等のかび毒の産生を助長しないことが重要です。赤かび病に罹病した穂の抜き取りや、子実水分が30%以下になり次第の速やかな収穫を徹底しましょう。

- ① 穂が緑色の時期にほ場を巡回し、赤かび病に罹病した穂を抜き取る。
- ② 赤かび病が多発している場合や倒伏が見られる場合は、仕分け刈り取りを行う。
- ③ 収穫適期が近づいたら、子実水分を頻繁に確認する。

- ◆ 大豆 夏期の高温が予想されています。高温対策として、播種適期の範囲で遅播きを検討しましょう。遅播きになるほど個体あたりの生育は抑制されるので、栽植密度を高くしましょう。また、干ばつの際に開花期以降に畦間かん水ができるよう、播種時に畦立てを行いましょう。

排水対策・耕起・碎土などを丁寧に行うことで土壌条件を整え、種子消毒や播種作業、除草剤の散布などを計画的に実施し、初期生育を良好にしましょう。

小麦

1 生育概況

小麦の開花期は平年並み～やや早く到達しました。

2 赤かび病に罹病した穂の抜き取り

薬剤防除だけでは、赤かび病を完全に抑制することはできません。

成熟期前の穂が緑色の時期は、罹病穂を識別しやすいため、この時期にほ場を巡回し、赤かび病に罹病した穂を抜き取ります。



写真1 赤かび病に罹病した穂

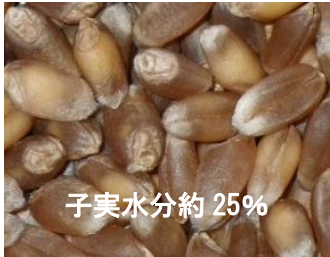
3 刈分け

赤かび病の発生が多い場合や倒伏が見られる場合は、被害を受けていない健全な麦と分けて収穫し、その後も必ず健全な麦と分別して管理します。

4 適期収穫

- (1) 収穫適期が近づいたら、子実水分を頻繁に確認し、30%以下になり次第、速やかに収穫しましょう。刈り遅れにより麦が降雨に当たると、赤かび病の進展や DON 等のかび毒の産生を助長する原因となります。
- (2) 子実水分は 1 日で大きく変動します。晴天時には 1 日で 2~2.5%程度低下するとされていますが、風がある条件では 5%以上低下することもあります。水分計を用いて、こまめに確認します。

表 1 小麦子実の固さと水分

子実水分 (%)	子実の固さ	参考(子実の状態)
30	固いろう状 爪でパカッと割れる、内部はガラス化	
25	固いろう状 爪がやっとたつ、内部はガラス化	

5 収穫作業の事前準備

- (1) 収穫適期になったら速やかに収穫できるよう、圃場の排水対策や収穫機械の点検・整備を早めに行います。コンバインや乾燥機の清掃手順をまとめたマニュアルがありますので、そちらを参考に準備してください。

～熟練者の知識・技能を活かした～ コンバイン機内清掃マニュアル（農研機構）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/pdf/seisou_m_2712.pdf

自脱型コンバインの日常保守点検シート（(一社)日本農業機械協会）

<https://nitinoki.or.jp/bloc3/tenken/Sheet3.pdf>

乾燥機 メンテナンス作業安全マニュアル — 高所作業編 —（(一社)日本農業機械工業会）

http://www.jfmma.or.jp/data/kansouki_maintenance_manual_kousyosagyo-20210826.pdf

- (2) カントリーエレベーターや共同乾燥施設を利用する場合は、計画的に収穫作業を進められるよう、受入時間や荷受け基準水分をあらかじめ確認しておきます。
- (3) 被害粒の混入を防ぐため、事前に倒伏や赤かび病の発生状況を確認し、刈り取りの順序を決めておきます。

6 収穫作業の注意点

- (1) 乾燥機への速やかな張り込み

収穫した麦を長時間放置すると変質し、異臭麦や熱損傷が発生します。刈り取り後はできるだけ早く（必ず 4 時間以内に）乾燥機へ搬入します。

- (2) 異物混入の防止

収穫・調製時には、圃場の土を収穫物に付着させないように注意します。また、収穫時にコンバイ

ンへの土の噛み込みを防ぐため、できるだけ高刈りを行います。万一、コンバインのヘッダ部に土を噛み込んだ場合は、作業を中断して清掃を行います。

収穫した小麦を運搬する際は、急な降雨や異物の混入を防ぐため、シートをかけます。

7 乾燥作業の注意点

乾燥機的能力に合わせて収穫作業を進め、速やかに乾燥を行います。

(1) 張り込み量

循環式乾燥機への張り込みは、タンク容量の7~8割程度とします。平型乾燥機では、堆積の高さを20cm程度に抑えます。

(2) 送風温度

送風温度は50℃以下とします。また、穀温が40℃を超えないよう適宜状態を確認します。高温で急激に乾燥すると、熱損傷や退色粒が発生する場合があります。

(3) 二段乾燥の実施

乾燥施設の効率的な利用を図るため、二段乾燥を行います。子実水分が17%以下となるまで一次乾燥し、一時貯留して放冷後、仕上げ乾燥により子実水分を12.5%まで下げます。なお、貯留時は通気性に留意します。

8 調製作業の注意点

粒厚が厚く、容積重が大きいほど、かび毒の濃度が低くなる傾向があります。このため、粒厚選別機（グレーダー）は、2.2mm以上のふるい目のものを使用します。

粒厚選別機と併せて、比重選別機や色彩選別機を使用することで、かび毒に汚染された粒を除去することが可能です。組み合わせて利用する場合には、粒厚選別機→比重選別機→色彩選別機の順番で行います。

9 次期作のための圃場準備

小麦は連作により、雑草や土壌病害のまん延、地力低下が発生し、生産性が低下するため、他の作物との輪作が望ましいです。連作が続いているほ場では、水稻など他の品目への転換を検討します。やむを得ず連作する場合には、ほ場準備を万全に行います。

(1) 排水対策

小麦の収穫直後に、額縁明きよの施工やサブソイラ等による心土破碎を実施し、ほ場の排水性を高めます。

(2) 土壌 pH の改善

本県の小麦は水田転換畑で作付けされていることが多く、小麦の好適 pH (6.0~7.5) より低いほ場が散見されます。土壌分析を行い、石灰など不足する養分を補給します。

(3) 有機物施用

小麦を連作すると土壌有機物が分解され、土壌の養分供給力（いわゆる「地力」）が低下します。このため、たい肥や土壌改良資材を積極的に投入し、地力の増進を図ります。

たい肥の投入が難しい場合は、緑肥を作付けして土壌に有機物を補給します。小麦の収穫後から次の播種までに利用できる緑肥について整理された資料がありますので、下記を参考に適切な緑肥を選択します。

小麦栽培における緑肥作物の導入効果（岩手県農業研究センター 研究レポート）

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_002/004/715/repo_1045.pdf

大豆

1 排水対策の実施

排水が良好なほ場で栽培された大豆は、出芽の揃いが良く、その後の生育も均一に進みます。また、初期に根が深く伸長することで根域が広がり、根粒が多く着生します。これにより効率よく養分が供給され、高単収につながります。さらに、根が深く伸長することで夏期の干ばつにも強くなります(図1)。

大豆の多収を実現するためには、ほ場の排水性を高めることが重要です。具体的な作業方法は次のとおりです。

- (1) 播種前に弾丸暗渠やサブソイラ等を用いて排水対策を講じます(写真2)。特に転作田では、必ず畦畔の内側に溝幅20~30cm、深さ15~30cmの溝(額縁明渠)を設置し、ほ場水尻の排水口につなぎます(写真3、4)。排水溝の設置は、夏期の干ばつ時に畦間かん水を実施する際にも役立ちます。
- (2) 基盤整備後の転作ほ場は、重機による踏圧等の影響で透水性が低下している場合があります。このため、排水口を深く掘り下げて額縁明渠につなぐなど、排水性を高める対策を行います。



写真2 サブソイラの施工



写真3 溝堀機による明渠の設置



写真4 排水口への接続

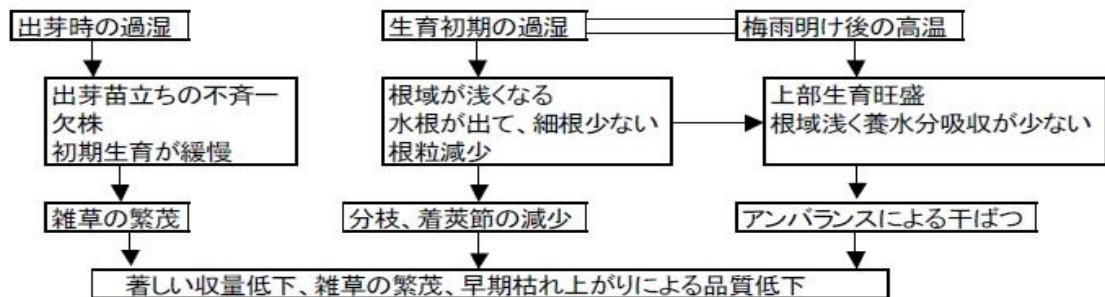


図1 過湿による収量・品質低下の要因

2 施肥・耕起・碎土・整地

- (1) 碎土は丁寧に行います。均一に碎土することで、種子と土壌の密着性が高まり、出芽の揃いになります。また、播種後の土壌処理除草剤が均一に広がるため、除草効果の安定も期待できます。
- (2) 耕うん・碎土後(特にロータリ耕後)は、土壌が水分を含みやすく乾きにくくなります。石灰資材等の散布などの圃場準備は播種の1か月前までに済ませるなど、余裕を持った作業計画を立てます。
- (3) 整地終了後から播種前にかけて雑草の発生が目立つ場合は、非選択性除草剤を利用します。
- (4) 大豆は根粒菌と土壌中窒素の利用が多く、水稻や他の畑作物に比較して窒素施肥量は控えめにします(表2)

表2 「ナンブシロメ」、「リュウホウ」、「シュウリュウ」の施肥基準量

地域	目標収量 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)				
		窒素	リン酸	加里	石灰	苦土
県北部		(2~)4	5	7	8	3
県中部	270	2~4	4	7	8	3
県南部		2(~4)	4	7	8	3

注)「リュウユウ」については、現在検討中であるが、当面は本表に準ずる。

3 播種作業・品種に応じた栽植密度の確保が重要です

(1) 播種適期

品種別地帯別播種適期は、概ね表3のとおりです。播種作業は適期内に行います。本年は夏期の高温が予想されているため、高温対策として播種適期の範囲内で遅播きを検討します。

圃場が滞水するような条件や、播種前後に大雨が予想される場合は、出芽が劣るため、播種作業は控えます。播種深は通常3cm程度としますが、土壌が過度に乾燥している場合は、出芽遅れを防ぐため5cm程度とします。

(2) 播種様式

畦幅(条間)は、その後に使用する管理機械に合わせて設定します。品種別の栽植密度は、表4を目安とします。

遅播きになるほど個体当たりの生育が抑制されるため、栽植密度を高めます(播種量を増やします)。

表3 大豆の品種別地帯別播種適期

項目	ナンブシロメ	リュウホウ	シュウリュウ
県北部	5/25~5/31	-	5/25~5/31
県中部	5/15~6/5	5/15~6/5	5/15~6/5
県南部	6/1~6/20	6/1~6/20	6/1~6/20

表4 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ナンブシロメ	リュウホウ	シュウリュウ
栽植密度(本/10a)	1万~1万2千	7千~1万5千	1万~1万5千
畦間×株間(cm)*	70×30~24	70×40~20	70×30~20
播種量(kg/10a)	2.5~3	2.5~5	3.5~5.3

注) *は、畦間を70cm、1株2本立てとした場合を示した(ユキホマレの狭畦密植栽培を除く)。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する(晩播ほど密植とする)。

表5 「リュウユウ」の地帯別播種適期及び栽植密度

地帯	播種適期(月/日)	栽植密度(本/10a)	播種量(kg/10a)
県北部	5/20 ~ 6/5	1万5千~2万	5.0 ~ 6.6
県中部	6/1 ~ 6/10	1万~1万5千	3.3 ~ 5.0
県南部	6/5 ~ 6/20	7千~1万5千	2.5 ~ 5.0

(3) 湿害軽減播種技術

水田転換畑での栽培では、排水不良による湿害が発生しやすいため、上記1のとおり排水対策を実施した上で、以下の湿害軽減播種技術と組み合わせると効果的です。

湿害軽減播種技術には、次のようなものがあります。

① 代かきハローを用いた「小畦立て播種」

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/page/002/004/792/repo_366.pdf

② 改良型アップカッターロータリを用いた「耕うん同時畝立て播種」

http://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/page/002/004/376/daizu_5.pdf

③ ディスク式畑用中耕除草機を利用した「畝立て播種」

https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/page/002/004/785/repo_664.pdf

これらの技術はいずれも、播種時に畦を立てることで種子の位置や根域を高め、地表付近の滞水の影響を緩和する効果があります。本年は夏期の高温が予想されているため、高温・干ばつ対策として、開花期以降に畦間かん水が可能となるよう、播種時に畦立てを行います。

【令和5年産大豆の障害粒（「莢ずれ粒」等）の発生について】

令和5年産大豆では、下表のとおり不定形裂皮粒や莢ずれ粒といった障害粒の発生が多く、特に県中南部を中心に発生が目立ちました。莢ずれ粒の発生機構は解明されていませんが、主に子実肥大期の早い時期における高温・干ばつといった気象条件が影響していると考えられています。高温から回避し、莢ずれ粒の発生を軽減できるよう、播種適期の範囲内で遅播きを検討してください。

R5大豆作況品質及び障害粒調査結果（農研北上）

品種	年次	農産物検査 ^{※1}		障害粒発生程度の粒数割合(%)									
		検査等級	落等理由	紫斑	褐斑	べと	腐敗	裂皮 ^{※2}	虫害	しわ	未熟粒	莢ずれ	
リュウ	R5年	規格外	裂皮・莢ずれ	2.0	0.0	0.0	1.1	15.6	5.7	3.2	2.0	41.5	
	平年			0.3	0.1	0.7	0.2	5.4	2.1	12.4	3.6	-	
	差			+1.8	-0.1	-0.7	+0.9	+10.2	+3.6	-9.2	-1.6	-	
シュウ	R5年	規格外	裂皮・莢ずれ	3.3	0.3	0.0	1.0	14.8	6.6	5.1	1.5	38.3	
	平年			1.1	0.0	2.3	0.2	5.3	1.6	6.9	4.2	-	
	差			+2.2	+0.3	-2.3	+0.8	+9.5	+5.0	-1.8	-2.7	-	



R5作況ほ産 子実



線形裂皮粒 (H29観作物指導指針より)

- ・「(不定形)裂皮」や「莢ずれ」が多発
- ・虫害(カメムシ)被害も平年より多
- ・整粒割合は3割程度
- ・精子実重はリュウホウ約150kg/10a
シュウリュウ約130kg/10a

(4) 青立ち対策

青立ちの発生原因はさまざまですが、主に、①一株単位での生育過剰、②一株当たりの莢数の減少などが挙げられます。一株単位での生育過剰を防ぐためには、疎播とならないよう適切な播種量を確保することが重要です。特にシュウリュウなどの大粒品種では、播種量の調整と確認を入念に行います。

また、開花期前の高温や干ばつなどの気象条件により着莢数が減少し、青立ちが発生する場合があります。このため、必要に応じて畦間かん水の実施を検討します。

(5) 病虫害防除…種子消毒を徹底

紫斑病や茎疫病、タネバエ防除のため、必ず種子消毒をします。

(6) 雑草防除

ア 播種後の土壌処理剤の散布は必須です。播種後すぐに散布できるよう準備します。土壌処理剤は、土に適度な湿り気がある状態で散布することが望ましいですが、土壌が乾燥している場合は、希釈水量を上限とし、均一に散布して処理層の形成に努めます。

また、連作ほ場等で雑草の発生量が多いと予測される場合は、10a 当たりの使用量を農薬登録の範囲内でやや多めに設定し、雑草の発生を確実に抑制します。

イ 覆土が浅いと薬害が生じる場合があります。覆土は2~3cm 以上確保し、十分に鎮圧します。

(7) 中耕培土…中耕培土で生育の安定化を

ア 中耕培土には次のような効果があり、生育の安定化に役立ちます。

①雑草防除、②倒伏防止、③土壌の通気性を改善し地温を上昇させることで根の機能を向上させる、④発根を促進して根群を発達させる、⑤土壌の排水性を高める、などです。

中耕培土の時期は、大豆の2~3 葉期および5~6 葉期が一般的ですが、雑草の発生状況に応じて(除草剤の効果が低下してきた時期に)、雑草が小さいうちに実施することが重要です。培土の高さは、コンバイン収穫の場合はあまり高くしないように(おおむね1 葉節以下) 注意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土は一定の高さで株元までしっかりかかるように行います。

イ ディスク式中耕除草機の普及が進んでいます。主なメリットとして、①湿潤土壌でも土壌の練りが少なく適期に作業できる、②作業能率および燃費に優れる、③畦立て栽培に適しており除草効果が高い、などが挙げられます。詳細については、農業改良普及センター等に問い合わせてください。

共通

1 肥料コスト低減に向けて

肥料・燃油価格の高騰が進む昨今ですが、必要な資材までも安易に使用を控えると収量や品質に悪影響を与えてしまいます。このため、肥料については、土壌診断に基づく適正施肥、たい肥等有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等によりコスト低減に努めます。

岩手県では、肥料コスト低減に向けて下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル(令和4年1月)

https://www.pref.iwate.jp/agri/res/projects/project_agri/page/002/004/581/hiryoukosutoteigen0406.pdf

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyoushizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
 - 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - 背を向けて走って逃げない
 - 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

山火事を起こすも防ぐも 私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 令和8年5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共通 排水対策の実施、かん水設備の導入について検討しましょう。
- ◆ 施設果菜類 温度管理の徹底、草勢維持、病虫害防除に努めましょう。
- ◆ 露地果菜類 土壌水分と地温を確保し、活着促進に努めましょう。
- ◆ 葉茎菜類 雨よけほうれんそうは、ハウスの換気を徹底し、べと病、萎凋病対策を徹底しましょう。露地葉菜類は、害虫の発生状況に応じた早めの防除を行いましょう。

1 生育概況

- (1) 施設果菜類は、きゅうり、ピーマンとも収穫が始まっており、生育は概ね平年並みです。病虫害では、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が見られています。
- (2) 露地きゅうり、露地ピーマンともに定植が始まっており、例年並みの5月下旬～6月上旬頃が定植のピークとなる見込みです。
- (3) 雨よけほうれんそうは、概ね良好な生育となっています。病虫害では、ハウレンソウケナガコナダニ、アブラムシ類の発生が見られています。
- (4) ねぎの定植は順調に進んでおり、生育は概ね平年並みです。高冷地のレタス・キャベツの生育は平年並みですが一部で乾燥による影響が見られています。

2 技術対策

(1) ほ場の排水対策とかん水（共通）

例年、施設・露地ともに排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。水田転作の場合は、水路等の点検整備を行い、ほ場外からの水の浸入防止に努めるとともに、降雨後の排水を促すための明きょ・排水溝の設置、高うね栽培とします。排水不良が十分改善されない場合は、耕盤破碎や補助暗きょの設置も検討してください。



写真1 左：ハウス周囲の明きょ設置状況 右：降雨時の排水路への排水状況

排水対策の実施に加え、かん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善等の効果が現れます。近年、定植直後や夏期は高温少雨により乾燥する傾向にありますので、露地果菜類においても簡易点滴かん水装置等のかん水設備の設置・導入を検討してください。

(2) 施設果菜類の管理

日中の最高気温が30℃を越えないよう、換気を行う等、温度管理を徹底します。果菜類全般に、気温の上昇とともに収穫量が増加し、草勢は低下してきます。長期安定生産に向けて追肥やかん水、整枝、誘引等の作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。

ア きゅうり

■ 草勢が低下している場合は、雌花を摘花し草勢回復を図ります。

■ 側枝の発生が弱い場合は、枝整理を遅らせる等、草勢の確保に努めます。

定植時期が早い半促成作型等では、群落内への採光・通風を改善するため、展葉してから45～50日経過した葉を中心に、積極的に摘葉を行います。草勢維持のため、一度に株当たり2～3枚以内の摘葉を原則としますが、主枝葉が25枚程度展開した後は、一度に5枚程度の摘葉も可能です。

イ トマト

第5～6段花房開花以降、急激に草勢が低下するケースが多いことから、第1～3段花房は適切に着果制限を行います。また、生長点が細くなる等の草勢低下の兆候が見える前から、追肥を実施する等の草勢維持管理を徹底します。

かん水は、第3花房の開花期から、生育に合わせてかん水量を徐々に増やしていきます。ただし、降雨や曇天の日は、かん水量を晴天時の半分から1/3とし、降雨が続く場合はかん水量をさらに減らします。自動かん水装置がある場合は、一回のかん水時間を調節するよりもかん水回数を調節します。

6月は急激な気温変動による尻腐れ果の多発や生長点の萎れが発生する傾向にあります。今後の生育や天候に留意し、それに見合ったかん水を行います。また、畝を黒マルチで被覆している場合は、根の活性適温(地温15～22℃)を維持するため、通路と畝の肩まで白黒ダブルマルチで被覆し、地温上昇を防止します。

ウ ピーマン

他の果菜類より根域が浅く狭い傾向があるので、定植から収穫初期は土壤水分が不足しないようにかん水量や回数を増やします。

初期はV字型(直立ぎみ)、主枝が伸びてきたらU字型(開帳ぎみ)に誘引しますが、品種によって草勢が異なるため、生育を見ながら調節し主枝が優先するように誘引します。

草勢が弱い場合は、側枝を2～3節で摘心して主枝を強く伸ばし、過着果にならないよう摘果します。

エ 病害虫管理

気温の日較差が大きい時期は、ハウスを密閉すると湿度が高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、殺菌剤の予防散布を行います。また、細菌病やウイルス病の感染拡大を防ぐため、わき芽取り、整枝及び摘葉は、傷口が乾きやすい晴天時に行います。

アブラムシ類、アザミウマ類及びコナジラミ類等の発生が今後目立ってきますので、ウイルス病の感染防止の観点からも発生初期の防除やハウス内外の除草をしっかりと行います。

(3) 露地果菜類の管理

ア きゅうり

生育初期に十分に根群を発達させることが、長期安定生産を実現する重要なポイントです。これは、キュウリホモプシス根腐病対策としても非常に重要な基本事項ですので、定植から定植後1ヶ月間の初期管理をしっかりと行い、根群発達を促します。

初期生育を良好にするため、防風対策をしっかりと行うとともに、土壤水分が適湿な状態でマルチを張り、15℃以上の地温を確保してから定植します。

定植作業は晴天日を選んで行い、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水する等活着を促します。

また、定植直後の防風保温対策として、ポリキャップ等の利用が効果的です。

定植後、本葉 10 枚頃までに主枝の 7 節以下の雌花と 5 節以下の側枝は早めに除去し、着果させる節位は 8～10 節からとします。ただし、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を 2～3 節上げ、草勢の確保に努めます。6～8 節から発生した側枝は、1 節摘心とし、それ以上から発生した側枝は 2 節摘心、孫枝は 1 節摘心を基本とします。

梅雨時期は、「黒星病」「斑点細菌病」「べと病」を重点とした薬剤を選択し、予防散布に努めます。なお、最近、一部地域で黒星病対象薬剤の耐性菌が発生している事例が見られますので、薬剤散布の効果が見られない場合は、最寄りの農業改良普及センターに相談してください。



写真2 排水の違いによるきゅうりの根の状態
(左：排水良好、右：排水不良)

イ ピーマン

ここ数年、収穫初期からの尻腐果の発生が問題となっています。尻腐果は、石灰欠乏が要因で、土壌の乾燥や過湿等、根の活力低下が発生を助長します。そのため根量が少ない生育初期は、地温 18℃以上の確保や適切な土壌水分を維持するため、マルチの設置は適切な土壌水分の時に、定植まで 1 週間以上を確保します。

トンネル栽培は、日中にトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花等）が発生しやすいため、被覆資材を開放して換気を行います。有孔フィルムは、最低気温が 17℃を超える頃を目安に除去しますが、低温が予想される場合は被覆期間を延長します。かん水設備がないほ場では、尻腐れ果の発生が懸念されますので、カルシウム資材の葉面散布等を行います。

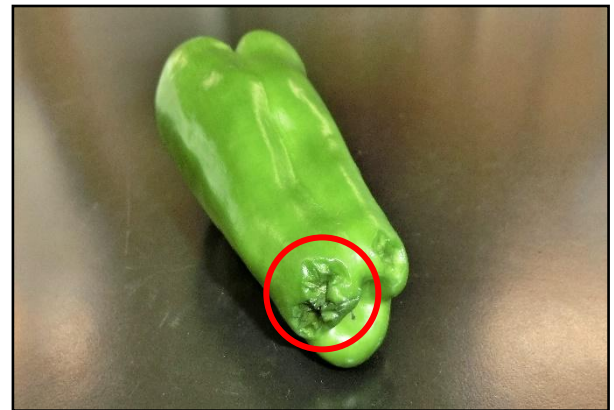


写真3 尻腐れによる果実先端のくぼみ

露地栽培では、定植後は株元かん水により活着と生育の促進を図るとともに、仮支柱に固定し風による倒伏を回避します。

露地およびトンネル栽培の整枝は、主枝 4 本仕立てで側枝放任とします。3 本分枝は過繁茂の原因となりやすいので、誘引開始時までに整理します。第 1 分枝の下部より発生するわき芽は随時かきとり、誘引後はふところ枝が過繁茂にならないように適宜取り除きます。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線やフラワーネット等を高さ 50～60cm で水平に 1～2 段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

これからは日長が長くなり、抽だいしやすい条件になるので、抽だいにくい品種を用いることを基本とします。

近年、6 月でも高温になることが多く見られるので、換気を徹底しハウス内の温度が上がりすぎないように注意します。また、生育が停滞しないよう、は種時のかん水を十分行うとともに、本葉 3～4 枚以降は生育中のかん水を行ってください。

高温下では、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生します。例年土壌病害の発生が多いほ場では、計画的に土壌消毒を実施してください。

べと病の複数のレースに対し抵抗性を持つ品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性があります。梅雨入り（平年値 6月15日頃）後は、ハウス内の湿度が高まりやすくなるので、ハウスの換気とともに、適用のある殺菌剤の予防散布を心がけてください。

例年、ハウレンソウケナガコナダニの被害が発生するほ場では、次の防除対策を徹底してください。

- 未熟な有機物（ワラ、モミガラ、堆肥等）を施用しない。
- 被害の見られる株や残さはハウス外に持ち出し処分する。
- 生育中のかん水を行い、収穫直前までは場の表面が湿った状態を保つ。
- 農薬による防除は、農薬使用基準を遵守し、土壌処理剤と茎葉散布剤を併用する。茎葉散布剤は、ムラなくかかるように必要な量を丁寧に散布する。

また、アブラムシ類の発生が見られる場合は、適用のある殺虫剤で防除します。なお、ハウレンソウケナガコナダニに適用のある殺虫剤は、アブラムシ類に効果のないものが多いので、注意が必要です。



写真4 ハウレンソウケナガコナダニの被害状況（芯止まり、葉の奇形）

イ キャベツ

コナガ、タマナギンウワバの飛来を確認しており、6月上旬～8月下旬はコナガの重点防除時期のため、幼虫の発生を確認したら早めに防除を行います。また、これから定植する作型では、必ず育苗期後半～定植時に殺虫剤を施用します。

ヨトウガは、今後の発生予察情報に留意し、適期防除に努めます。なお、同系統の薬剤の連用としないように注意して防除します。

ウ レタス

ナモグリバエの重点防除時期である5月中旬～7月中旬は、定植直後から加害が始まるので、育苗期～定植時のセルトレイ施用剤が効果的です。散布剤による防除は、葉の被害を観察して実施してください。

【散布剤による防除適期の判断方法】（写真参照）

最上位葉から数えて、2～4枚目の葉を観察し、幼虫の食入痕が見られた場合（写真の2、4葉にみられる被害程度）が、茎葉散布による防除適期です。



エ アスパラガス

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%以下になった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（二期どり栽培）を行う場合は、さらに早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、茎枯病、斑点病を対象とした殺菌剤を予防散布します。なお、近年多発傾向にある茎枯病は、萌芽直後2週間以内の茎で特に感染しやすいため、立茎開始直後が最重点防除時期になります。倒伏防止用のフラワーネット等の利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。薬剤のローテーション散布、実こぼれ苗の除去、適正な立茎本数と下枝除去による過繁茂防止、降雨による泥はね防止対策も併せて実施します。

また、アザミウマ類が発生し始める時期ですので、発生を確認したら速やかに防除を行います。

オ ネギ

定植後1ヶ月程度たってから培土を開始し、その後も生育状況を見ながら追肥、培土を行います。生育が遅れている場合は、無理な培土を行わず、生育に合わせた作業を心がけます。

アザミウマ類やネギコガ、ヨトウムシ類の発生が見え始める時期ですので、初期防除に努めてください。

(5) 5月23日の低温による影響を受けた場合の対策について（共通）

5月23日の最低気温が平年より低下したことにより、一部のほ場や品目で降霜等による影響が見られています。

その対策として、果菜類では、生長点が枯れる等、低温の影響が大きかった場合は、植え替え等を行います。影響の程度が小さかった場合は、着果節位を上げる等草勢の回復を図るほか、主枝が影響を受けた場合は側枝の利用を検討します。葉菜類では、生長点が影響を受けた場合は収穫が見込めないため植え替え等を行います。果菜類、葉菜類ともに、障害を受けた部分から病害が発生しやすくなりますので、殺菌剤の予防散布を行います。

5月22日発行の「低温対策について(5/22)」にも記載していますので併せて確認してください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/technical/2012399/2012713.html>

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

1 クマに遭遇しないために

- ・ 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
- ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

2 クマを寄せ付けない

- ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
- ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。

3 出会ったときの行動

- ・ 背を向けて走って逃げない
- ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる

4 襲われそうになったら...

- ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]
「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

[~5月31日]
山火事を起こすも防ぐも私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第3号 花き

発行日 令和8年5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共通 ほ場が乾燥する場合は、かん水しましょう。
- ◆ りんどう 適期定植、適期防除（特にリンドウホソハマキ）に努めましょう。
- ◆ 小ぎく 適期作業に努め、病虫害防除を徹底しましょう。

りんどう

1 生育の状況

露地栽培の生育は、平年並み～やや早くなっています。極早生品種では着蕾が始まっています。草丈は前年より長く、葉先枯れ症状の発生が見られています。病虫害では、リンドウホソハマキやハダニ類、葉枯病の発生がみられています。6月上旬から各地域で本格的な定植作業が始まる見込みです。

2 圃場管理（採花年）

（1）株仕立て

極晩生品種など株仕立てを終えていない品種は、草丈30cm頃までに株当たり8～10本程度残して他の茎は除去します。

（2）かん水

5月下旬から6月は茎葉が最も伸長する時期で、水分や肥料を多く必要とします。肥料の吸収には土壌水分が必要なので、土壌が乾燥した都度、通路かん水を行います。ただし、30℃を超えるような高温時のかん水は、根に高温障害を発生させる可能性があるため避けます。また、通路の長時間滞水にも注意します。

ほ場の乾燥が続くと、葉先枯れ症状が発生しやすくなります。葉先枯れがみられるほ場では、通路かん水をするとともに、生育初期からの定期的な石灰資材を葉面散布し、発生を軽減を図ります。

（3）追肥

基肥として「りんどう専用肥料」等の化成肥料を用いた場合は、追肥を行います。追肥は側芽発生期（葉の付け根に側芽が発生する時期）までに終えるようにします。北上市における平年の側芽発生期は、早生種で5月下旬から6月上旬、晩生種で6月中旬から下旬ですが、ほ場をよく観察して適期に遅れないように施用します。

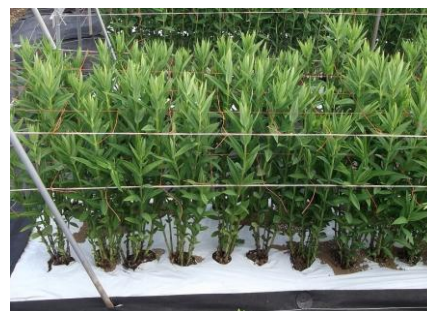
定植時に「りんどう定植2年肥料」を用いた場合は、基本的に2年目の施肥は不要です。ただし、葉色が薄い症状がみられる時は、化成肥料を用いた場合と同様に追肥します。



葉の付け根に発生した側芽

(4) ネット管理

フラワーネットの最上段が草丈の7割程度の位置となるよう草丈の伸長に合わせて調整します。6月は茎葉が伸長する時期です。ネット上げ作業の間隔を短くし、茎の曲がりを防ぎます。



ネット上げ

(5) 雑草対策

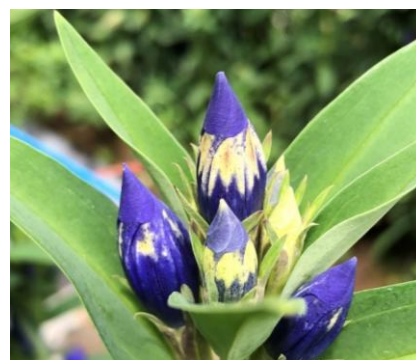
ほ場内及び周辺の雑草は、ハダニ類やアザミウマ類の繁殖場所となるので、畦畔の草刈りや通路の除草を早めに行います。また、通路の防草シート設置や除草剤の利用などにより、できるだけ手取除草や機械除草を減らして省力化を図ります。

(6) 高温対策

花芽発達中に高温や強日照に遭遇すると、花卉の着色異常（日焼け花）や開花遅延が発生しやすくなります。梅雨明け以降に開花となる品種には、開花の約1か月前から遮光資材（遮光率30～40%）を設置し、日焼け症状の軽減を図ります。



遮光資材の設置例



日焼け花の症状

3 畑づくり（定植年）

(1) ほ場準備

天候を見ながら計画的に畑づくりを進めます。堆肥は完熟したものを用品いますが、熟度に不安がある場合は、早めに施用して土と混和しておきます。

排水不良ほ場では、明きょや排水路の設置、高畝とする等の対策を講じます。定植年の生育状況が2年目以降の生育に大きく影響するので、排水対策はとても重要です。

畝立て後、土壌処理タイプの除草剤処理により、一定期間雑草の発生を抑えることが可能です。



りんどう定植予定ほ場の周囲に掘られた明きょ（必ず排水口につなげること）

(2) 定植

定植に適した苗は3～4対葉です。老化苗定植とならないよう計画的に定植作業を進めます。また、ジベレリン処理を行った苗は、苗の軟弱徒長を防ぐため、遅くとも処理後2、3日以内に定植します。

晴天時の定植では、セルトレイを長時間直射日光下に置かないよう注意します。また、抜き取った苗をマルチ上に置かないようにします。

定植時は、床土と苗との隙間を通路の土や市販培土等で埋め、乾燥を防止し、早期の活着を促します。また、定植後は植え穴へ十分量かん水し、床土と苗をなじませます。初期生育を促すために、薄めの液肥をかん水代わりにかん注する例もみられます。

定植から1か月程度は乾燥に弱いので、その間は特に水分管理に留意します。



培土を使い床土と苗の隙間を埋める

4 病虫害防除

(1) 葉枯病

下葉での発生がみられています。降雨が多くなると発生しやすく、梅雨入り後に拡大する傾向があります。10日間隔で予防散布を行い上位葉への感染を防止します。

定植年に多発すると、株が枯死する場合があります。定植後から発生させないように、秋まで防除を徹底します。

(2) 黒斑病

例年、入梅期（6月下旬）にフラワーネット等により生じた葉の傷口から感染が始まります。梅雨時期に発生すると、着蕾期や開花期に薬剤散布しても発生を抑えることが難しくなります。初期の発生を抑えるため、入梅期に効果の高い薬剤を予防散布します。

黒斑病の防除は、感染、発病させない予防散布が重要です。平均気温20℃以上の連続降雨日に感染しますので、薬剤散布する場合は、週間天気予報を参考にして降雨前に散布するようにします。

(3) リンドウホソハマキ

越冬世代の成虫の羽化や産卵が確認されています。成虫や幼虫の潜葉痕及び頂部の食害が認められたら、直ちに防除を開始します。産卵の大部分は葉裏に行われるため、下位葉の葉裏までしっかり薬剤がかかるよう、丁寧に散布します。

茎部に食入後の幼虫は薬剤防除が難しいため、被害茎を見つけたら折り取り処分します。



成虫(体長5～6mm)

孵化幼虫の潜葉痕

頂部の食害

(4) ハダニ類

発生が始まっています。下葉の裏の寄生状況を観察し、発生を見たら直ちに防除を開始します。ハダニ類は薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同系統の薬剤は年1回の散布とします。併せて、発生源となるほ場内及び周辺雑草の除草を行います。

小ぎく

1 生育の状況

8月咲き品種の定植は、平年どおり4月下旬から5月上旬となりました。定植後の生育は概ね順調で、摘心後の側枝の発生が始まっています。9月咲き品種の定植は、平年どおり5月下旬から始まっています。病虫害は、白さび病、アブラムシ類、アザミウマ類の発生がみられています。

2 定植後の管理

(1) かん水・排水対策

定植後に土壤水分が不足すると生育が停滞し、側枝数や切花長の不足の要因となります。乾燥が続く場合は、適宜かん水を行います。一方、大雨後に滞水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を促します。

(2) 摘心

摘心は、定植後に活着を確認してから芽の先端部を摘み取ります。作業後はほ場を何度か確認し、摘心のやり残しや不完全な摘心がないようにします。

また、省力化を目的として、定植前にセルトレイ上で摘心する方法や、定植後に本葉4、5枚を残して先端部を通常より大きく摘み取る方法(ハードピンチ)もあります。いずれの方法とも、側枝の発生数が少なくなる場合がありますので、側枝の発生が弱い品種では、慣行の定植後のソフトピンチとします。

(3) 整枝

整枝(株仕立て)は、側枝の長さが20～30cmの頃に行います。株当たり3本残して他の枝は除去しますが、草勢の強い品種では4本仕立ても可能です。残す枝の判断については、強い枝を残すと他の枝の生育が悪くなるので、できるだけ生育の揃った枝を残すようにします。



整枝(側枝3本を残す)

(4) 土寄せ

無マルチ栽培の場合は、土寄せを行い、生育の促進と雑草対策を図ります。側枝が10cm程度伸びた頃と、整枝を行ったあとの2回が実施時期の目安です。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

品質・収量に大きな影響を及ぼす可能性があるため、年間を通して防除します。育苗期に発生した場合、苗からの持ち込みによって本畑でも発生しやすくなります。また、降雨が多くなる梅雨時期に発生が増えるので、今後注意が必要です。

薬剤の選定は各地域の防除暦等を参考としますが、発生状況に応じた「予防剤」と「治療剤」の適切な使い分けが重要です。発生後は治療効果の高い薬剤を散布します。



小ぎくの白さび病(葉裏)

(2) キクわい化病

キクわい化ウイルスによる病気で、節間が短縮して草丈がわい化し、葉は葉色が淡くなり、小型になります。

わい化病に感染した株は治癒する可能性はなく、治療薬もありません。ほ場に残すことで他の株への伝染源となります。親株として使用した場合は挿し穂に伝染するので、見つけ次第抜き取り処分します。



小ぎくのわい化病

(3) 害虫

今後、ハダニ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類及びアザミウマ類に注意が必要です。特に、親株で発生がみられた害虫は、苗からの持ち込みによって本畑でも発生しやすくなります。発生状況の観察に努め、早期に防除します。また、発生・増殖源となる雑草の防除を行います。

一部の地域で、クロゲハナアザミウマの発生がみられています。ハダニ類による葉のかすれ症状と被害と似ているため、加害種を確認したうえで薬剤を選択し防除します。



クロゲハナアザミウマの被害

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyoushizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

[~5月31日]

山火事を 起こすも防ぐも 私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第3号 果樹

発行日 令和8年5月28日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 満開期は、平年より8日程度早くなりました。開花期間中に、降雨や強風、低温の日があったため、結実への影響を見極めつつ、良質な果実を残すよう摘果を進めましょう。
- ◆ ぶどう 展葉期は、平年より10日程度早くなりました。開花期前後が繁忙期となるため、今後の生育進度を把握し、管理作業を計画的に進めましょう。

りんご

1 生育概況（開花期）

生育診断圃の調査結果（表1）から、県平均の「ふじ」の開花始期は4月26日（平年差-9日、前年差-5日）、満開期は5月1日（平年差-8日、前年差-4日）、落花期は5月6日（平年差-7日、前年差-4日）となりました。

本年は、3月以降、気温は平年より高く推移し、「ふじ」の発芽日及び展葉日（県平均）は、平年より8日早まっていますが、開花期もほぼ同様の傾向が見られました。

なお、開花期間中は、気温が平年を下回る日があり、生育が一時的に停滞した地点もありました。また、降雨の日も多く（図1）、風が強い地点もあったことから、結実への影響が懸念されます。果形不良が発生する可能性もありますので、摘果の際には注意が必要です。

加えて、4月9日、17日、25日、5月23日など、最低気温が平年より低い日があり、凍霜害発生の目安となる安全限界温度を下回る地域が見られました。その結果、一部の地域において雌しべの褐変などの症状が確認されていますが、作柄への影響については、今後、花芽の量や結実状況を確認していく必要があります。

表1 生育診断圃調査結果による「ふじ」の開花状況

市町村・地区	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)			開花期の平年・前年差					
	本年		前年 (R7)	本年		前年 (R7)	本年		前年 (R7)	開花始		満開期		落花期	
	(R8)	平年		(R8)	平年		(R8)	平年		平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
盛岡市三ツ割	4/27	5/6	5/4	5/2	5/10	5/8	5/7	5/14	5/13	-9	-7	-8	-6	-7	-6
花巻市石鳥谷 ^{※1}	4/25	5/6	5/2	4/30	5/9	5/7	5/5	5/13	5/11	-11	-7	-9	-7	-8	-6
奥州市江刺樽輪	4/28	5/2	5/2	5/3	5/6	5/6	5/8	5/11	5/10	-4	-4	-3	-3	-3	-2
一関市狐禅寺 ^{※2}	4/24	5/4	4/27	4/28	5/8	5/3	5/4	5/13	5/9	-10	-3	-10	-5	-9	-5
陸前高田市米崎	4/23	5/2	4/27	4/29	5/7	4/30	5/4	5/12	5/4	-9	-4	-8	-1	-8	0
宮古市崎山	4/29	5/6	5/1	5/4	5/10	5/7	5/10	5/16	5/16	-7	-2	-6	-3	-6	-6
二戸市金田一	4/26	5/6	5/2	5/2	5/11	5/6	5/7	5/15	5/13	-10	-6	-9	-4	-8	-6
県平均	4/26	5/4	4/30	5/1	5/8	5/5	5/6	5/13	5/10	-9	-5	-8	-4	-7	-4

※1：R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。

※2：R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。

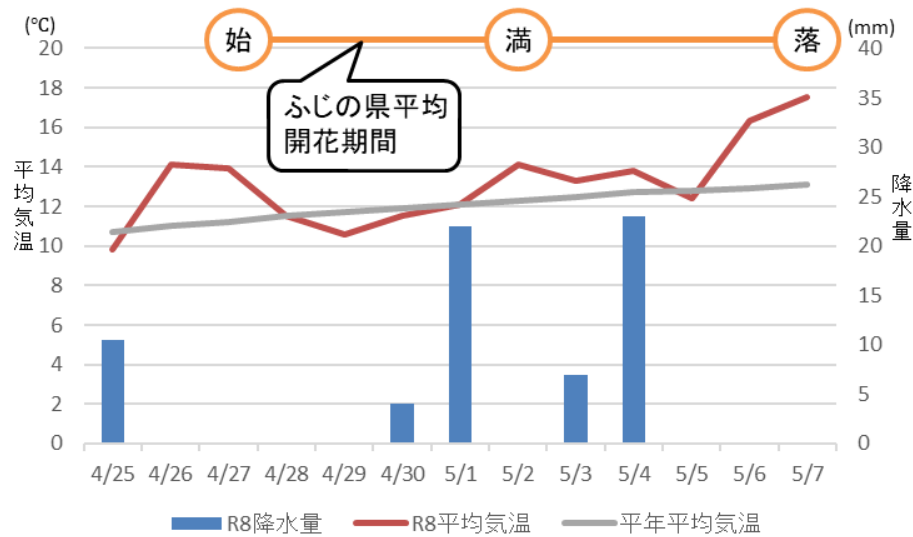


図1 「ふじ」の開花期前後の気象経過（盛岡）

2 摘果

(1) 早期摘果の重要性

開花後1ヶ月位までは主に貯蔵養分で生長し、その後は、根や葉の生長に伴い当年の同化養分で果実や新梢、新根が生長します。このため、果実の初期肥大を促すためには、早期の摘果で貯蔵養分の消耗を少なくすることが重要です。

また、早期の摘果により種子（ジベレリンを分泌し、花芽形成を阻害する）を減らし、花芽分化を促進することも、隔年結果を防止し安定生産を図るうえでは非常に重要です。

今年の果実肥大と来年の花芽確保のためにも、早期のあら摘果が大切ですので（図2）、満開後30日頃までにはあら摘果を終了できるように、品種構成や労力等に応じた作業スケジュールを立て、計画的に摘果作業を進めます。

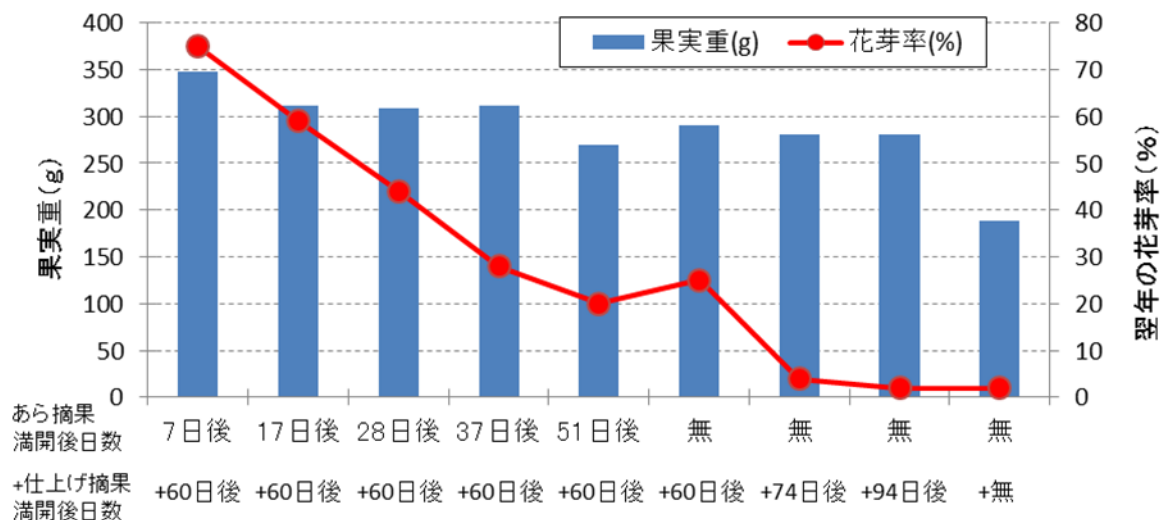


図2 摘果時期が「ふじ」の果実重及び翌年の花芽率に及ぼす影響
（長野果樹試 平成12～13年）

(2) 摘果の留意点

- ア 最初に、1果そう1果とする予備摘果（あら摘果）を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。
- イ 品種別の摘果終了の目安は表2のとおりです。今年の落花期は平年より7日程度早く、落花30日後となるのは県平均で6月5日前後になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。

- ウ サビ果、三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。
- エ 横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。
- オ 果台が極端に長いもの(25mm 以上)や短いもの(10mm 以下)は、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。
- カ 昨年は夏期に記録的な高温となり、降水量も少ない期間があったため、樹勢が衰弱しやすい傾向にあります。本年の花数や開花状況に影響が見られた園地では、果実の素質をよく観察して作業を進めてください。

表2 品種別作業手順

項目	品 種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	つがる、ジョナゴールド、紅玉	落花30～35日後

3 病虫害防除

- (1) 病虫害防除所が発行する発生予察情報を参考に防除を進めてください。
- (2) 4月以降、気温が高く経過したため、キンモンホソガの第1世代の羽化時期は平年より早まる見込みです。令和8年5月22日付け「[農作物病虫害発生速報 No. 5](#)」を参照のうえ、適期防除に努めましょう。
- (3) 果樹カメムシ類の発生にも留意し、令和8年5月25日付け「[農作物病虫害発生速報 No. 6](#)」を参照のうえ、園地に飛来が見られたら防除を行いましょう。
- (4) ハダニ類は、気温の上昇とともに増える可能性があります。新梢葉で寄生葉率が30%に達したら、速やかに防除を行ってください。
- (5) 6月は斑点落葉病など様々な病害の感染時期です。梅雨期は週間天気予報などを活用し、降雨の合間を捉えて、散布間隔が空き過ぎないように防除を実施してください。
- (6) 炭疽病は、本県で優占していた *Colletotrichum acuatum* の発生生態に基づき幼果期を重点防除時期としています。一方、近年は病原性の強い *C. gloeosporioides* による被害も見られます。6月後半が高温で推移する場合、*C. gloeosporioides* による秋期の多発を警戒し、入梅期（6月中下旬～7月上旬）と8月の防除を徹底します。病原菌は雨によって媒介されるため、降雨前の予防散布を徹底し、樹上の発病果が重要な伝染源となるため、見つけ次第摘み取り処分します。
- (7) 黒星病の発病葉（図4）や発病果（図5）は、見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなど適正に処分してください。苗木など未結果樹での発生にも注意し、成木と同様に薬剤防除を徹底します。



図3 *C. gloeosporioides*による炭疽病の病徴
(品種：シナノゴールド)

摘要) 8～10月に発生し、病斑は赤道上面に見られる。発生が多い品種：きおう、紅いわて、シナノゴールド、王林、ふじ



図4 黒星病の葉表の病斑



図5 黒星病の果実病斑

ぶどう

1 生育概況

紫波町の生育診断圃調査結果によると（表3）、発芽期は4月24日（平年差-7日、前年差-6日）、展葉期は4月28日（平年差-10日、前年差-7日）でした。

ぶどうは、開花期前後が繁忙期となります。生育状況や気象情報をしっかり確認し、計画的に作業を進め、開花前の管理が遅れないよう注意しましょう。

なお、4月25日や5月23日には、最低気温が平年より低くなりました。降霜が確認された園地においては、新梢や花穂の状況を十分観察のうえ、作業を進めます。

表3 ぶどう定点観測調査地点における生態・生育調査結果（紫波町赤沢、キャンベルアーリー、短梢）

調査年次	生態(月/日)				
	発芽期	展葉期	開花期		
			開花始	満開期	落花期
本年(R8)	4/24	4/28			
平年	5/1	5/8	6/13	6/16	6/20
前年(R7)	4/30	5/5	6/8	6/12	6/16
平年差	-7	-10			
前年差	-6	-7			
参考 R6	4/23	4/27	6/1	6/3	6/8

2 開花期前後の栽培管理

(1) 新梢の誘引

展葉7～8枚頃に、2回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。

(2) 花穂の整理

ア 「キャンベルアーリー」は、開花前に3穂着生している新梢については、1穂落として2穂とし、全体で目標着房数の1～2割増の着生数とします。

イ 「紅伊豆」の最終着房数は1新梢1房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。

ウ 無核化する品種では、花穂の整形と併せて摘穂を行います。摘穂の目安は、ジベレリン処理により着粒が安定するため、最終着房数の1.5倍程度の着生数とします。

(3) 花振るい防止

ア 「キャンベルアーリー」は、強めの新梢を開花7～4日前に房先5～7枚の葉を残して摘心します。

イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、植物生長調節剤を使用することにより、花振るいを軽減（着粒増加）できます。使用する際は、品種毎の登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形（図6）

ア 「キャンベルアーリー」は、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除し、下端を切り詰めます（尻止め）。また、主穂が長すぎる場合は上段の枝梗を1～2段切除します。

イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1～2輪開花し始めた頃から先端部を切り詰めます。「紅伊豆」では副穂を切除し、主穂の基部から4～6段を切除して10～13段程度を残すよう整形します。

ウ 「サニールージュ」は開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂を除去し（長い花穂は上部支梗を1～3段除去）、花穂の長さを概ね7～8cmとします。なお、花穂の先端は切り詰めません。

エ 「シャインマスカット」は開花初期（副穂の開花が始まった頃）に副穂と上部支梗を切除し、房先を用いて花穂の長さを概ね4cmとします（花穂の先端は切り詰めません）。また、花穂先端が2つに分かれて使えない場合は、第1枝梗を利用します。なお、「シャインマスカット」の

1回目のジベレリン処理5～7日後に果軸長を6cm程度に調整すると、2回目のジベレリン処理後に実施する摘粒作業時間を3割減らすことができます。調整の方法は、上部支梗を切除し、支梗を着生させた部分の長さを6cm程度とします。房尻は切り詰めません。

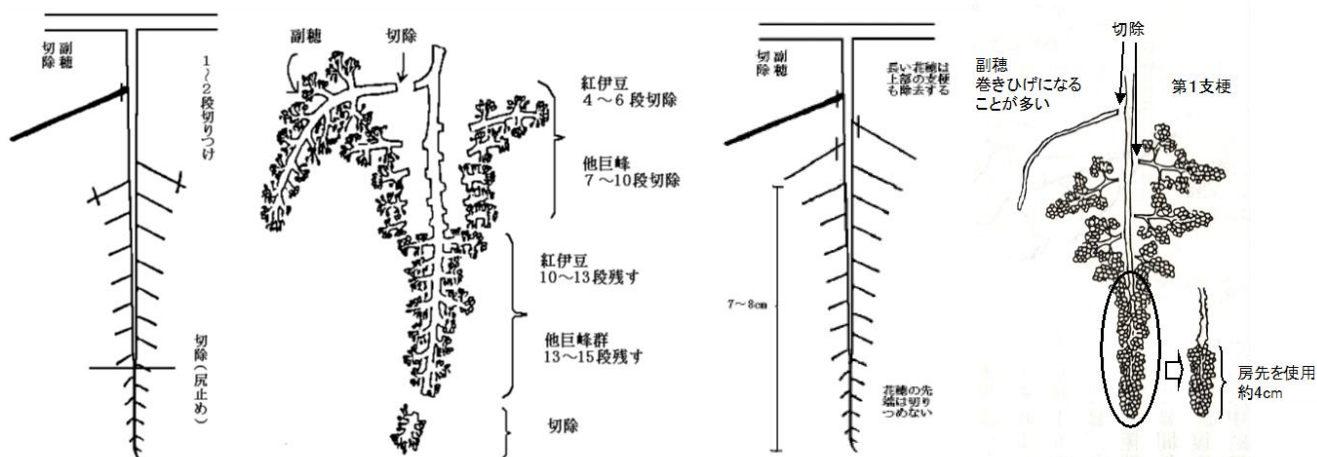


図6 花穂の整形(左からキャンベルアーリー、紅伊豆等大粒種、サニールージュ、シャインマスカット)

(5) 無核化处理

種なしとするため、「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」や「サニールージュ」、「シャインマスカット」の無核化处理が遅れないようにしてください。

なお、植物生長調節剤を使用する際は、品種毎の登録内容を十分に確認してください。

(6) 摘粒

ア 摘粒は、果粒肥大を促すとともに裂果や病害の誘発を防ぎ、着色向上など品質確保に不可欠な作業です。果粒の大きさが小豆から大豆くらいの大きさとなる満開後30日以内に終了するのが目標です。

イ 「キャンベルアーリー」や「ナイアガラ」は1果房当たり70粒程度、「サニールージュ」は50粒程度とし、二つ折りにできる状態を目安に行いますが、縦に1～2列(2列の場合は表側1列と裏側1列)摘粒する方法や段抜きなどの簡便法もあります(図7)。

ウ 「紅伊豆」、「ハニーブラック」は1果房当たり30～40粒、「安芸クイーン」は25～30粒、「シャインマスカット」は40～50粒程度とします。最上位に4粒程度着粒させ、下部に行くほど徐々に着粒数を減らし、下端は1粒となるようにします(図8)。

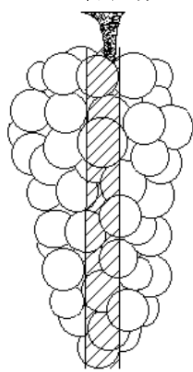


図7 「キャンベルアーリー」、
「ナイアガラ」、「サニールージュ」
等の摘粒方法
(2列抜く場合は、表と裏を1列ずつ抜く)

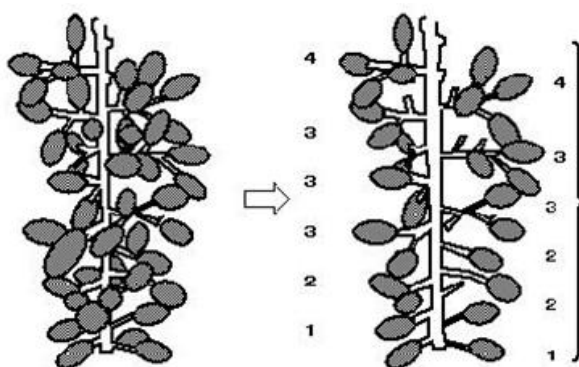


図8 紅伊豆の摘粒方法

3 病虫害防除

(1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めてください。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう

注意してください。

- (2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしてください。
- (3) りんごの炭疽病とぶどうの晩腐病の病原菌は、同一のものです。りんごでは、近年、病原性の強い *C. gloeosporioides* による被害が見られます（りんご3の（6）を参照）。6月後半が高温で推移する場合、晩腐病の多発を警戒し、入梅期（6月中下旬～7月上旬）と8月の防除を徹底します。病原菌は雨によって媒介されるため、降雨前の予防散布を徹底し、樹上の発病果は重要な伝染源となるため、見つけ次第摘み取り処分します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyuu/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
 - 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - 背を向けて走って逃げない
 - 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

[~5月31日]

山火事を起こすも防ぐも 私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 令和8年5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 牧 草 一番草の収穫時期（出穂期）を迎えました。刈り遅れないよう、晴天が続く日を見計らって収穫・調製を行いましょう。5月中旬から高温傾向にあるので、再生力の維持のため、刈り取り高さは10cm以上としましょう。
- ◆ 飼料用とうもろこし 播種深は3cmを基本としますが、凍霜害や極端な乾燥が予想される場合は、5cmとしましょう。凍霜害にあった場合は、早めに播き直しましょう。雑草を抑制して、とうもろこしの初期生育を促しましょう。害虫による食害が無いか、ほ場を見回り確認しましょう。
- ◆ 家 畜 畜舎環境の暑熱対策を開始しましょう。日中の気温が25℃以上になった日は、夜間も積極的に送風しましょう。

牧草

1 生育状況

4月上旬は好天に恵まれ、例年より早めの施肥となりました。4月下旬から5月上旬にかけてやや低温、少雨傾向のため、5月中旬頃の出穂期の草丈は低い傾向にありますが、収穫が始まっています。

5月下旬の高温、降雨により乾物量の増加が見込まれますが、同時に開花・結実が早まることが予想されますので、刈遅れに注意して収穫を行います。

2 収穫

(1) 牧草の収穫適期

ア オーチャードグラス

収量と栄養価のバランスを考慮して、「出穂始めから出穂期」に収穫します。目安は1㎡で出穂本数が2～3本（出穂始め）から、全体の40～50%（出穂期）です。

1番草は、生育が進むにつれて収量は増加しますが、消化率、可消化養分総量（TDN）、粗タンパク質含量（CP）は減少します。

イ チモシー

新しい分けつの発生促進と収量確保のため、1番草は出穂後に収穫します。

チモシーは、1番草の刈株の地際から、2番草となる新しい分けつが発生し、2番草から翌年の1番草まで維持されます。

(2) 刈り取り高さ

再生を促すため、地際から10cm程度（握りこぶし1個分の高さ）茎を残して刈り取りを行います（写真1）。特に、高温時（気温25℃以上）に刈り取る際は、10cmよりやや高めにします。

刈り取り高さは、再生力を決定する重要な要因です。刈株に蓄積されている養分が再生に影響することから、低刈りは高温や干ばつに耐える養分不足となり夏枯れ症状を助長し、2番草の減収につながります（写真2）。



写真1 地際から10cm程度の高さで刈り取る



写真2 低刈りしたため枯死したオーチャードグラス

(3) 調製

ア 乾草調製

良質な乾草を調製するため、水分15%前後まで予乾を行います。晴天が4日以上続く日を見計らって刈り取りを始めます。

水分が高いとカビの発生による品質の低下だけでなく、発熱、自然発火にもつながります。晴天が続かない場合は無理に乾草とせず、サイレージ調製に切り替えます。

イ サイレージ調製

調製時の水分は、ロールバールサイレージで50~60%、バンカーサイロ等で65~70%となるよう、予乾を行います。

土壌の混入は変敗の原因となるので、トラクタのスピードを落とし、圃場の凹凸に注意しながら反転・集草します。

ロールバールサイレージは、ロール成形から密封までの時間が大幅に経過すると、品質低下につながります。ロール成形後は、必ず当日中に密封作業を行います。

3 追肥

(1) オーチャードグラス

刈り取った茎から再生するので、速やかな追肥により再生を促進させます(写真3)。

施肥量の目安は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。多回刈り(4回/年)を行う場合は、20%程度減量します。

(2) チモシー

刈り取った茎は枯死し、地際の球茎から新分げつが発生します(写真4)。

オーチャードグラスより再生が緩やかなので、1番草刈り取り後7~10日を目安に追肥をします。施肥量の目安は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。



写真3 オーチャードグラス
刈り取られた栄養茎からすぐに再生する



写真4 チモシー
球茎から2番草となる新分げつが発生する

飼料用とうもろこし

1 播種状況

県内の飼料用とうもろこしの播種は、平年よりやや早く、5月上旬から始まっています。品種の早晩性・収穫予定日に合わせて作業を進めてください。

2 播種深度と凍霜害

播種深度は、3～5 cm 基本とします。

凍霜害が心配される場合、播種時期が遅くなった場合、土壤水分が低く乾燥気味の場合、砕土が十分でなく土塊が多い場合は、播種深度は5 cm 程度とし、十分に鎮圧を行います。

プランターの走行速度が速すぎると、播種深度が安定せず2 cm 未満と浅くなり、根が正常に発達しない場合があるので、播種深度を確認したうえで播種を行います。

凍霜害は、生育初期から本葉8～10枚頃まで注意が必要です。

低温に当たって、一時的にアントシアニンが生じて葉が紫色になった場合は、気温の上昇とともに回復します。

降霜にあつて、葉が茶色になっても生長点が障害を受けていなければ回復します。

5月23日には県内で低温が確認されています。

生長点まで障害を受けた可能性が高い場合には、速やかに播き直しを行います。その場合は、収穫までに登熟が進むよう、初めに播種した品種よりも相対熟度（RM）が小さい品種を選定します。

3 雑草防除

土壤処理を基本とし、土壤処理で防除しきれない雑草は茎葉処理により防除を行います（防除したい雑草は写真5、6）。

茎葉処理では、雑草の種類を確認して、効果がある除草剤を選択します。除草剤の使用法（時期、回数、留意事項等）を必ず確認してから使用してください。



写真5 イチビ
異臭があるため、混入するとし好性が低下する

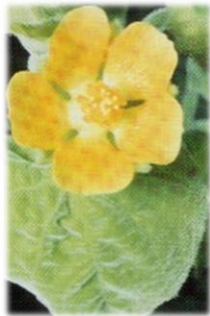


写真6 アレチウリ
ツルがとうもろこしに絡み収穫困難になる



3 虫害の発生確認と対策

飼料用とうもろこしほ場では、観察不足から虫害の発見が遅れる傾向にあります。幼苗期の虫害は欠株を招き、減収につながりますので、早期発見に努め、被害の拡大を防ぎます。

(1) ハリガネムシ（コメツキムシ類）

5～6月頃、針金状の細い幼虫が種子や幼苗に侵入して食害し、不発芽や枯死を招きます（写真7、8、9）。

播種後10～14日頃、とうもろこし3葉期頃に「欠株が多い」、「中心葉が枯れている」、「倒れている株が多い」等の発生がないか、観察します。被害株の周辺の土中に幼虫を確認することができます。

被害の程度によって、殺虫剤を散布するとともに、早生品種の追播を検討します。

牧草地から転換したほ場では、初年～3年目までに大きな被害が出やすいので、特に注意深く観察します。



写真7 中心葉が枯れた株を引き抜くと、地際が切断されているため、すぐに抜ける



写真8 地際（根元）が食べられ、根から切断されている



写真9 地際の土中に潜むハリガネムシ類の幼虫・さなぎ・成虫

(2) ネキリムシ（タマナヤガ類）

5～7月頃、とうもろこしの地際部を切断するように食害するため、株が倒れます。被害株の周辺土中に幼虫を確認することができます（写真10、11）。

南方から成虫が飛来してアカザ類、タデ類に好んで産卵し、ふ化した幼虫が食害します。初期の雑草発生が多かったほ場で産卵している可能性が高いため、除草剤の茎葉処理後にとうもろこしの食害が増えることがあります。とうもろこしの草高が1メートル程度になっていても、食害することがあります。

被害の程度により殺虫剤を散布します。発生時期によっては、殺虫剤の使用方法（散布から収穫までの日数、散布回数等）に注意が必要です。



写真10 地際で切断された株とネキリムシ



写真11 6月に食害された株（とうもろこしが大きくなっても倒される）

家畜

1 暑熱対策

今年も、夏期の気温が高く推移する見込みです。暑熱は受胎率の低下など、乳牛、繁殖牛の生産性への影響が懸念されますので、5月から対策を開始し、暑熱ストレスが蓄積しないよう管理します。

確実な暑熱対策を継続するほか、日中の気温が25℃を上回った日は、夜間も積極的に送風を行い、クールダウンに努めます。

乳牛が受ける暑熱ストレスの大きさは、気温と湿度により指標化され、一般的にはTHI（温湿度指数）が用いられます（表1）。

THI 65 から軽度のストレスがかかり、乾物摂取量や乳量が減少し始めます（気温 22℃、湿度 20% のとき THI は 66）。

盛岡市の平年値では6月から9月にTHI 70 以上の「注意」レベルとなりますが、令和7年は5月第2半旬からTHI が70 を超え、長期にわたり「注意」レベルが継続しました。

今年も5月第2半旬から「注意」レベルとなっています。気温 25℃でも湿度が80%になると「警告」レベルとなります。気温と湿度に併せて対策を行います（図1）。

表1 温湿度指数(THI)

		湿度(%)				
		20	40	60	80	
温度 (℃)	22	66	67	69	70	65~ 要注意
	25	69	71	73	75	70~ 注意
	28	71	74	77	79	75~ 警告
	31	75	78	81	81	80以上 危険
	34	78	81	85	89	

$$THI = 0.8 \times \text{気温} + (\text{相対湿度}/100) \times (\text{気温} - 14.4) + 46.4$$

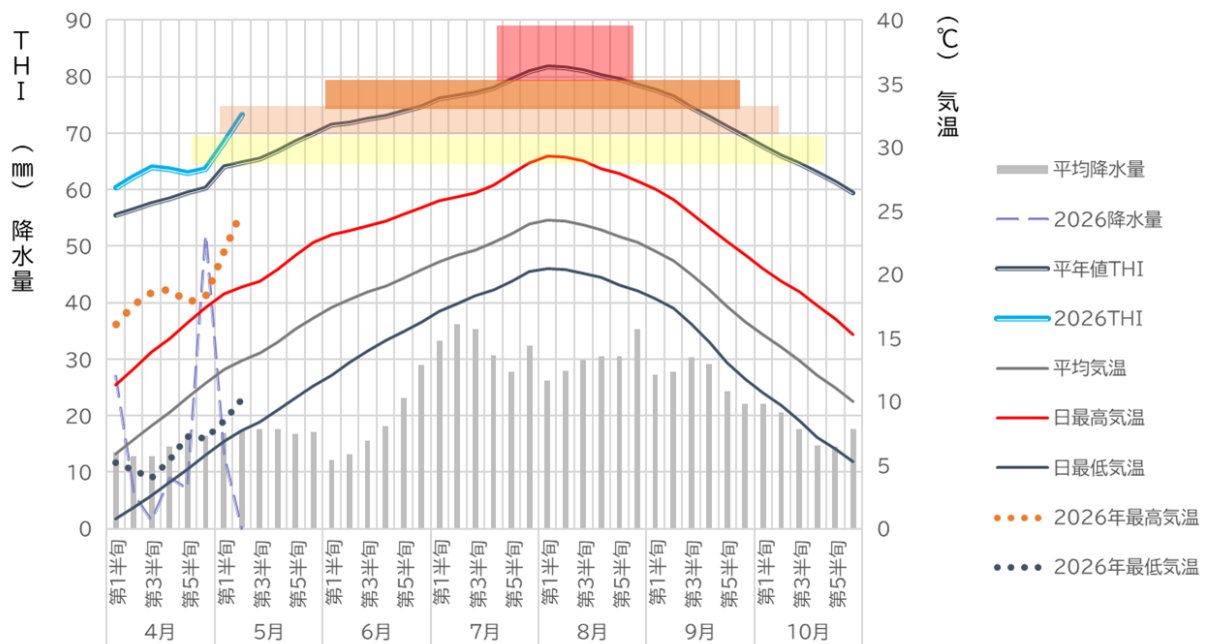


図1 盛岡の気象経過 半旬ごとの気温・降水量・THI(平年値と2026年)

(1) 温度変化を緩慢にする断熱、温度上昇を低減する遮熱、温度を下げる気化熱

ア 断熱

断熱材には空気が含まれており、輻射熱や対流で上昇した屋根や壁の温度を牛舎内に伝わりにくくします。屋根裏や壁に設置すると効果的です（写真 12）。

イ 遮熱

ドロマイト石灰や遮熱塗料を屋根に塗ると、輻射熱を反射して屋根の温度上昇を軽減します。また、西日が当たる窓などに寒冷紗を設置して、輻射熱が牛舎に入るのを防ぎます（写真 13）。

ウ 気化熱

屋根や牛舎周りのアスファルトなどへの散水は、気化熱で温度を下げる効果があります。朝や夕

方を避け、水分が蒸発しやすい昼の時間帯に行うと効果的です（写真 14）。

一方で、散水により湿度が高まると THI も高くなるので、牛舎内の湿度が上がらないように送風や換気を十分に行います。



写真 12【断熱】
屋根裏へのウレタン吹き付け



写真 13【遮熱】
牛舎屋根表への石灰塗布



写真 14【気化熱】
屋根への散水

(2) 送風と換気

牛舎内に気流を作ることで、牛の体感温度を下げます。風速 1m/秒で 6℃、2m/秒で約 8℃体感温度が下がるので、牛体の頸部や肩を中心に送風します。

同じ気温でも湿度が高いほど THI が上がり、体感温度が高まりますので、湿気の除去のためにも換気を行います。換気扇の台数が不足する場合は、新たな設置を検討します。

換気扇にホコリが多く付着していると送風量が落ちるだけでなく、電気代の増加にもつながりますので、掃除をしておきます。

順送換気の場合、牛舎の梁上の暑い空気を牛舎外に抜くために、妻面も出来るだけ開放します（写真 15）。

牛床に対する換気扇の角度は 45～60° を目安とし、牛体への送風を重視する場合は角度を小さくします（図 2）。



写真 15 妻面を開放（順送換気）

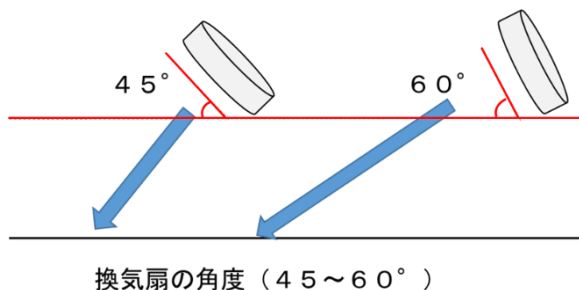


図 2 牛床に対する換気扇の設置角度

(3) 給水施設の整備

気温が上がると、飲水量が増えます（図 3、表 2）。

自由飲水量を確保するため、配管を太くすることや、ウォーターカップを改修することも検討します（写真 16）。また、水槽をこまめに清掃して、清潔な水が飲めるように管理します（写真 17）。

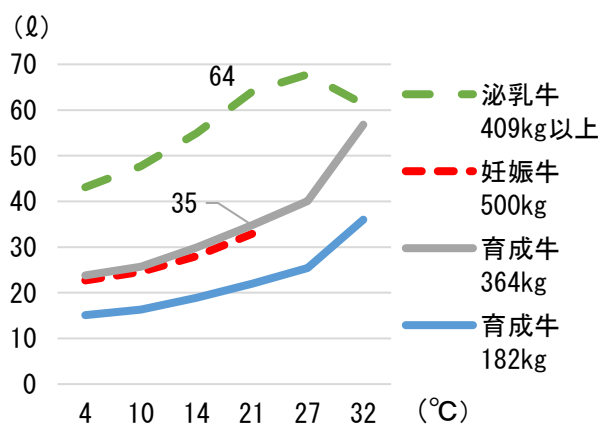


図3 黒毛和種 気温と飲水量 (日本飼養標準より作図)

表2 泌乳牛の飲水量 (乳脂肪率 3.8%)
日本飼養標準 2017 年より

平均最低気温 (°C)	0	25
乳量35kg/日 (ℓ)	86	116
乳量50kg/日 (ℓ)	118	147

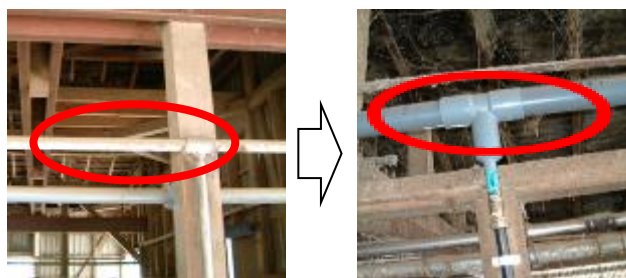


写真16 配管を太くして十分な水量を供給



写真17 毎日清掃し、ヌメリ・ザラザラの無い水槽に

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyoushizen/yasei/1049881/1043255.html>

1 クマに遭遇しないために

- ・ 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
- ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

2 クマを寄せ付けない

- ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
- ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。

3 出会ったときの行動

- ・ 背を向けて走って逃げない
- ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる

4 襲われそうになったら...

- ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

山火事を起こすも防ぐも私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第3号 野生獣対策

発行日 令和8年5月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 死亡事故が発生していることから、山菜採りはできるだけ控えるようお願いします。
- ◆ 3つの基本対策 よせつけない・まもる・とるを基本に取り組みましょう。
- ◆ 獣種に応じた対策 センサーカメラにより加害獣を確認し、対策を講じましょう。
- ◆ 生息環境管理 倉庫や車庫への施錠も忘れずに行いましょう。
- ◆ クマ出没状況アプリ 農作物や人身被害対策のため「Bears」を活用しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ クマの人里への出没が相次ぎ、死亡につながる人身被害が今年度に入って既に3件発生するなど(図2)、これまでにない危機的な状況となっています。
- ・ 今年は春からクマの出没件数が多く(図1)、今後もリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、これまではクマの出没がない地域においても、最大限の注意をお願いします。
- ・ 特に、死亡事故の多くは山菜やきのこ採りの際に起こっていますので、春の山菜採りはできるだけ控えていただくようお願いします。

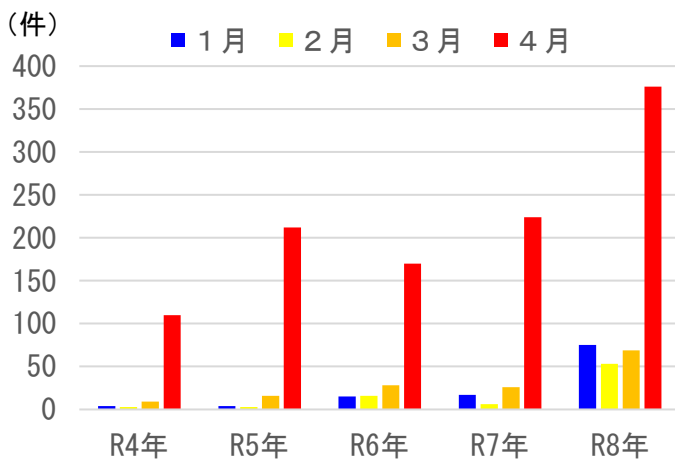


図1 クマの出没件数（1～4月）



図2 クマによる死亡事故件数（5/27時点）

【参考】 [農作物技術情報特別号 ツキノワグマ人身被害防止対策（令和7年10月30日発行）](#)

2 3つの基本対策

- ・ 農作物の被害対策は、①「生息環境管理（よせつけない）」②「侵入防止対策（まもる）」③「捕獲（とる）」の3つの取組が基本になります（[農作物技術情報第2号](#)参照）。
- ・ エサになる農作物があり、侵入しやすい環境がある限りは、加害個体をいくら捕獲しても次の個体が侵入し加害する悪循環が続くため、生息環境管理及び侵入防止対策を優先して取り組みます。

- ・ 人身被害のリスクが高いクマが出没した場合や、明らかに野生獣の生息密度が高い場合等は「捕獲」が必要ですが、農作物被害を受けた場合、まずは、「生息環境管理」、「侵入防止対策」に問題がないか、確認します（図3）。

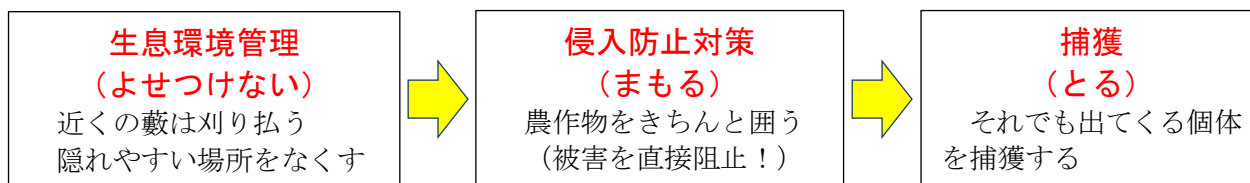


図3 3つの基本対策の流れ

2 獣種に応じた対策の実施

(1) 獣種の判別

- ・ 基本対策に取り組むために、まずは加害獣種を特定することが重要です。
- ・ 例えば、シカ、イノシシ、クマでは、それらに応じて設置すべき電気柵の高さ、段数が異なるほか、果樹で果実被害があった場合、カラスかハクビシンかなどで、とるべき対策が変わってきます。

(2) 判別の方法

- ・ 獣種の判別は、①足跡、歩き方、糞による見分け方、②食痕による見分け方、③センサーカメラによる確認、などがありますが、ほ場に明確な足跡、食痕が残ることは少ないため、センサーカメラ以外での判別は難しいのが実情です。
- ・ 例えば、明らかに大きい足跡であればクマの可能性が高くなりますが、子グマの足跡であれば、他の動物と判別がつくとは限りません（写真1）。



写真1 ほ場近くの獣道と足跡（蹄、足の指は確認できるが、獣種の特定には至らない）

(3) センサーカメラの仕組み

- ・ 「熱」と「動き」を感知する熱源感知熱源感知センサーにより、動物が来たときにだけ反応し、撮影が行われます（写真2）。
- ・ 撮影された動画または画像のデータは、SDカードに保存されます。
- ・ 夜間でも赤外線LEDを照射することにより、動物を驚かすことなく撮影できます。
- ・ 防水設計ではあるが完全ではないことが多いため、可能であれば屋根をつける、枝がある木に設置するなどにより、雨の侵入を防ぎます。



写真2 センサーカメラ

(4) センサーカメラのメリット

- ・ 人手をかけずに加害獣種を特定でき、獣種に応じた対策を立てることができます（写真3）。
- ・ また、加害個体を確認することにより、生産者が被害防止対策に取り組むきっかけにもつながります。



写真3 地域ぐるみでの対策を検討する座談会（センサーカメラの動画なども参考に対策を検討）

3 生息環境管理（よせつけない）

(1) 藪などの刈り払い

- ・ 野生獣は、本来警戒心が非常に強く、明るく開けた場所では人間に姿を見せることを避ける習性があります。
- ・ 藪などがある場合はそこに隠れ、田畑・集落に接近し被害をもたらすため、動物が隠れそうな藪を刈り払い、近づきにくい環境することが必要です（写真4）。

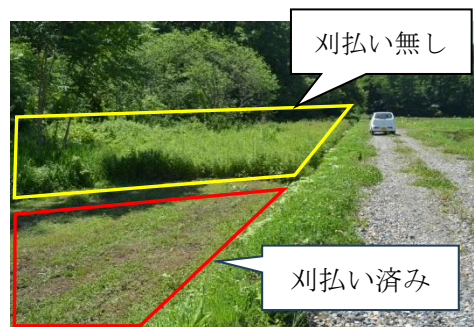


写真4 藪の刈り払い

(2) 誘引物の除去

- ・ カキ、クリなどの放任果樹は、野生獣のエサになるだけでなく、人身被害の原因にもつながる危険があるので、可能であれば伐採します。
- ・ また、人間にはゴミとなる収穫残渣なども動物のエサになるため、土中に埋めるなど適切に処分するほか、収穫しない落ちたクリなどの果実は冬の間のエサとなり、越冬できる数を増やすことにつながるため、秋のうちに処分します。

(3) 倉庫や車庫への施錠

- ・ 近年、クマが倉庫などの小屋に侵入し、農産物を食べる事例が増えています。
- ・ 実際、今年度死亡事故が起きた地域などにおいて、倉庫へのクマの侵入が確認されています。
- ・ これまでは被害がなかった地域でも、人身被害防止のため、扉に鍵を閉めるなどの対策が必要です。

(4) 農機具などの管理に注意

- ・ クマは、ペンキやガソリン、混合油などにも誘引されることがわかっています。
- ・ その行動は、ペンキなどをエサと見なしているのではなく、これらに含まれる揮発性の化学成分が、クマにとって強く刺激的なにおい信号として働いているために誘起されるのではないかと考えられています。

- ・ 農業の現場では、クマが執拗に草刈機をいじったため、軸が曲がったりエンジンが壊れたりするなどの被害も発生しています。
- ・ このような被害を防ぐため、農機具を外に放置しないなど、適切な管理が必要です。

【参考】クマが好むにおい

ペンキ、ワックス、燃料、香水、日焼け止め、車、など

4 野生獣対策に“特効薬”はない

- ・ 一般に、野生獣に対する忌避効果があるものとして、音や光、超音波を利用した商品が販売されています。しかし、これらの商品に対し、野生獣は導入当初は警戒しますが、高い学習能力により安全と判断した場合には再び圃場に侵入します。
- ・ こうした簡易なもので、一定期間以上、防御効果が期待できるものはないので注意が必要です。
- ・ 最近、県内でも多く見かける「識別テープ=ピンクのテープ」も同様の考え方です。
- ・ これは効果が一時的であるだけでなく、「柵はくぐって通過するもの」と動物が認識してしまうと、電気柵もくぐって通過してしまうようになる可能性があります。
- ・ 直接動物に痛みを与えることができる電気柵の効果を低下させないためにも、地域で連携して適切な対策に取り組むことが重要です。

5 クマ出没状況アプリ「Bears（ベアーズ）」

- ・ 岩手県では、4月からクマの出没情報アプリ「Bears」の運用を開始しています。
- ・ このアプリは、LINE から簡単にクマの目撃情報の投稿、注意喚起の通知を受けることができます。
- ・ 今年も春から既に多くのクマが確認され、人身被害も発生するなど危険な状況が続いていますので、ぜひ御活用ください。

クマを見たら…投稿しよう!

岩手県全域版
クマ出没情報アプリ
Bears (ベアーズ)
運用開始!

LINEで
クマ目撃場所
を投稿・通知

左記QRから、
岩手県公式LINE
を友だち登録

こちらの2次元
バーコードから
登録できます

クマ目撃情報を共有
県公式LINEと連携

LINEで投稿!

岩手県公式LINEから簡単に
クマ目撃情報を投稿できます。

必要項目を記載して、地図
上にピンを立てるだけで、迅
速に情報共有できます。

岩手県公式LINEを開いて、
「防災・震災復興」メニューを
選択

「クマを見た!」から
ピンを立てれば投稿完了

LINEから通知!

登録した地域でクマが出没
したら、岩手県公式LINE
から注意喚起通知が届きます。

周辺地域の出没情報の確認
や安全確保に活用できます。

岩手県公式LINEから通知

「クマはどこ?」から
マップで閲覧可

誰でもカンタン!

(注) 安全を確認してから投稿

岩手県環境生活部 自然保護課野生生物担当 TEL: 019-629-5371

生活部 自然保護課野生生物担当
岩手県盛岡市内丸10-1 TEL: 019-629-5371

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - 事前に入山地域の出没情報 や被害情報を確認する。
 - 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - 背を向けて走って逃げない
 - 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

春の農作業安全月間 [4月15日]

[~6月15日]

「これくらい・・・」少しの油断が事故のもと初心忘れず安全作業

岩手県山火事防止運動期間 [2月26日]

[~5月31日]

山火事を 起こすも防ぐも 私たち

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。

林野火災の多くは人為的な原因で発生していますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は6月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用ください。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。